

広島大学マスタース広島 第13回総会・懇親会 実施報告

◆第13回総会 概要

日 時 2026年6月13日（土） 16時～16時40分

場 所 広島大学東千田キャンパス総合校舎L棟

5階地域連携フロア SENDA LAB 多目的スペース

出席者 正会員18名、参与2名

議題、資料および議事進行状況（議事録は別途作成・提示）

1. 議長の選出

植村泰夫代表幹事を議長として選出し、議事進行を担当していただいた

2. 代表幹事挨拶

はじめに、植村代表幹事からご挨拶をいただいた（写真1）。上 真一参与（広島大学マスタース代表幹事）、原田康夫会員（元広島大学長）をはじめとして出席者の方々への感謝の言葉に続いて、本会の設立目的に言及しながら、2020年～2023年のコロナ禍での活動停滞、2024年の総会を契機とした活動再開など、これまでの活動を簡単に振り返られた。



写真1：植村代表幹事の挨拶

加えて、創設16年目に向けて、幹事会の高齢化、会員構成の教員偏向、活動対象の固定化など当会が直面する課題を指摘され、改善の必要性を強調された。

3. 来賓挨拶（金田 晋 参与）

創設メンバーとして本会への関わりを述べられる中で、地域活動や大学教育への支援、会員の親睦を深めること、などの設立理念に触れながら、「西条のマスタースも頑張るので、本会もさらなる発展をめざしてほしい」とエールをいただいた。（写真2）



写真2：金田参与の挨拶

4. 会員の状況 【報告資料】

椿幹事から、2026 年 5 月 30 日現在の会員数等について報告があった。その後、前回総会以降に他界された会員の方たちへ黙祷を捧げた。

5. 役員の選任について 【資料 1】

資料 1 にもとづき、椿幹事から説明された退任および新任に関して、原案通り承認された。

6. 2025 年度事業報告 【資料 2】

資料 2 にもとづき、椿幹事から説明があり、審議の結果承認された。

7. 2025 年度決算報告 【資料 3】

資料 3 にもとづき、圓山幹事から説明があった。

8. 会計監査報告

監査欠席のため、圓山会計担当幹事より、2025 年度の決算について、5 月 15 日に野村監査と、5 月 26 日に桑原監査とそれぞれ実施した会計監査において適正処理を確認していただいたと報告があり、決算報告が承認された。

9. 2026 年度事業計画 【資料 4】

資料 4 にもとづき、椿幹事から説明があり、原案通り承認された。

10. 2026 年度予算 【資料 5】

資料 5 にもとづき、圓山幹事から説明があり、原案通り承認された。

11. 議長の総会終了宣言の後、出席者全員で記念写真を撮影した（写真 3）。



写真 3：出席者全員での記念撮影（出席者の姓のみ敬称略で記載）
（後列左から）圓山、渡邊、武市、三井、水羽、中田、米倉、大杉、於保、寺本
（前列左から）椿、渡辺、上、植村、原田、金田、鈴木、廬、三本木、久保田
（寺本会員は出席であるが、所用のため撮影時不在）

◆総会に引き続き開催の懇親会について

総会終了後、同じく多目的スペースにおいて懇親会が行われた。総会終了少し前からケータリング業者が会場の周辺部で懇親会の設定を開始し、総会終了後に会場の中心部の設定に取り掛かる方式を採用することで定刻に開始できた。司会進行は於保幹事に担当していただいた。

開催要領は以下の通りである。

日 時 2026 年 6 月 13 日（土） 17 時 30 分～19 時 00 分

場 所 広島大学東千田キャンパス総合校舎 L 棟

5 階地域連携フロア SENDA LAB 多目的スペース

参加者 18 名

進行状況等を大まかに 1～6 に分けて述べる。

1. 開会の辞

於保幹事の開会の辞により懇親会を開始した。

2. 来賓挨拶

マスターズ広島の上代表幹事からご挨拶をいただいた（写真 4）。その中で、西条の広島大学マスターズの活動規模・対象と東広島市の都市サイズが調和している、と述べられたことが強く印象に残っている。西条、広島の両組織はほぼ同じ規模であるが、西条側の活動は東広島市民の生活に根差した取組が多く、同市の手厚いバックアップがあることなどは、このことが一つの要因であろう。広島市という大きな都市を活動の場とする当会にとって、広島市との間に西条側と同様の調和関係を構築・維持することの難しさを感じた。



写真 4：上代表幹事の挨拶

3. 乾杯の音頭

来賓挨拶に引き続いて、原田会員（元広島大学長）に乾杯の音頭を取っていただいた。会場全体にいきわたる十分な声量で乾杯の発声をされた（写真 5）。お若い頃と変わらぬ済んだ声と声量には驚くばかりであった。総会・懇親会への出席は初めてとのことで、乾杯の発声に先立って、出席さ

れた理由を「東広島市への大学移転に際しての多大な協力について皆さんに謝意を表するため」と説明された。学長在任の1993年～2001年の前半（一期目1993年～1997年）は、広島大学の東広島市移転において多くの学部、事務組織や図書館などの移転が終わり、1997年は（一部まだ残っていたが）1982年に始まった移転が実質的に完了した年である。当会の会員にも移転に関わった方が多く、今回の原田会員のご出席は時宜を得たものであった。



写真5：原田会員（元広島大学長）による乾杯の発声
（右は、司会の於保幹事）

4. 歓談・挨拶

乾杯のあと暫く、参加者には食事をしながら歓談の時間を過ごしていただいた（写真6、写真7）。



写真6：歓談の一コマ（左下から右回り）植村代表幹事、原田会員、中田会員、および上参与



写真7：歓談の一コマ（左から）三井会員、および新規加入の盧会員と三本木会員

暫くして、三本木、廬の2名の
新会員の方から自己紹介と挨拶
をいただいた。それぞれ入会の
動機や経緯、さらには現状と今
後に向けての思いなどを述べら
れた（写真8）。三本木会員は定
年より少し早く本学生物生産学
部を退職されて私学に異動され
たが、離れてみて広島大学の良
さを実感している、と言われた
ことが強く印象に残っている。
廬会員は、1998年（平成10年）
から在籍であったことや言語学



写真8：三本木会員（左側）および
廬会員の挨拶

が専門であることに加えて、自動車
で日本全国を一周された思い出も述
べられたが、これも印象に残っている。
近いうちに、この総会・懇親会を中
国で開催してはどうか、などの提案もされた。

このあと、元広島大学長の原田会員に対
して、会場の何処からともなく歌声を披露
してほしいという声が出てきて、それに応
えられて2曲を伴奏なしで歌われた。1曲
目は良く知られたカンツオーネの歌曲「オ
ー・ソレ・ミヨ」であった。2曲目につい
ては、当方のメモによると「呉の曲で、音
戸の瀬戸」と言われたとあるのだが、ネッ
トで調べた結果から「音戸の舟唄（舟
歌）」が該当する曲名ではないか、と考
えている。いずれにしても会場いっぱいに響
くその声量には彼方此方で驚きの声が上が
った（写真9）。



写真9：原田会員の熱唱

5. 懇親会の終了について

予定時刻に近づいたことと料理や飲み物および参加者の歓談などの状況を
踏まえて閉会のタイミングと判断し、於保幹事の閉会の辞により懇親会を
終了とした。

6. 懇親会終了後について

終了後、ケータリング担当業者および幹事団で直ちに後始末の作業を開始した。料理や飲み物の後処理、さらに会場設定の原状復帰等の作業を行った。昨年度既に経験していた作業でもあり、会場管理者による原状復帰状況のチェックは週明けということで、午後 7 時 30 分にはすべての作業を終了して解散となった。